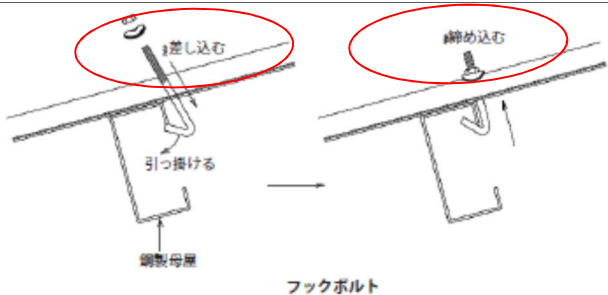
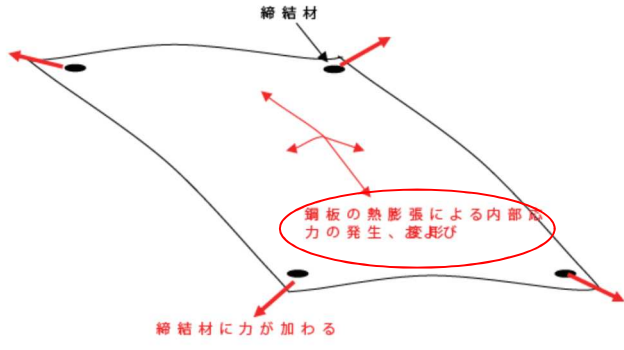
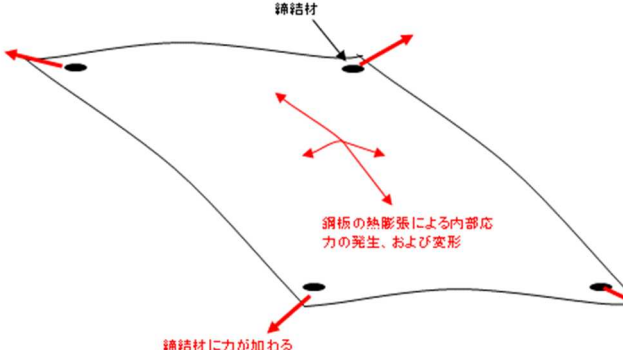


初めて学ぶ、もう一度学ぶ 金属の屋根と外壁 LLM2017 正誤表 Ver.2

章	ページ・位置	誤	正
1	P25 左段 上から 5 行目	江戸時代の大阪が銅製錬の 一 台中心地	江戸時代の大阪が銅製錬の 一 大中心地
1	P34 右段 上から 8 行目	寄棟や方形が増え、 た 屋根勾配も緩やかなものから、	寄棟や方形が増え、屋根勾配も緩やかなものから、
2	P47	3×6板から 切り出せる 範囲のサイズ のふき材を 手加工にて 成形	3×6板から 切り出せる 範囲のサイズ のふき材を 手加工にて 成形。
2	P70 (6)スタンディングシーム	スタンディングシームぶきは、心木 より 瓦棒ぶき…主に 銅 板が使われます。	スタンディングシームぶきは、心木 あり 瓦棒ぶき…主に 銅 板が使われます。
2	P84 (2)スパンドレル	図 2.4.7 に示すように二つのタイプに分かれます。	図 2.3.7 に示すように二つのタイプに分かれます。
2	P71 図 2.2.20		差し込む 締め込む
2	P92 左段 上から 2 行目	下地 についての目安	下地 についての目安
2	P93 コラム 上から 12 行目	スレート に見える	ストレート に見える
3	P126 連続梁、単純梁の注意点	積雪荷重(正荷重) おける	積雪荷重(正荷重) における
3	P130 コラム 右段 1 行目	面形状 が 異なれば	面形状 が 異なれば
3	P132 表 3.1.4 のタイトル行	流れ方向に直行する 胴縁間隔(mm)	流れ方向に直行する 留め付け間隔(mm)
		留め付け間隔 外壁材の厚さ	胴縁間隔(mm) 外壁材の厚さ
3	P134 右段 最終行	(屋根長さ 10m)。 こと などを確認しています。	(屋根長さ 10m)。 こと などを確認しています。 * 改行

3	P168 図 3.4.6	<p>下地は木材または鉄材</p> <p>せっこうボード15mm厚以上 もしくは せっこうボード厚(2mm+せっこう)</p> <p>屋外側</p> <p>屋内側</p> <p>せっこうボード12mm厚以上 もしくはロックール保温板25mm厚以上</p>	<p>下地は木材または鉄材</p> <p>せっこうボード15mm厚以上 もしくは せっこうボード厚12mm+せっこうボード9mm厚以上</p> <p>屋外側</p> <p>屋内側</p> <p>せっこうボード12mm厚以上 もしくはロックール保温板25mm厚以上</p> <p>亜鉛鉄板</p>
3	P170 図 3.4.10	<p>間柱及び下地は不燃材料(鉄骨など)</p> <p>せっこうボード15mm厚以上</p> <p>屋外側</p> <p>屋内側</p> <p>せっこうボード12mm厚以上</p> <p>亜鉛鉄板</p>	<p>間柱及び下地は不燃材料(鉄骨など)</p> <p>せっこうボード9.5mm厚以上</p> <p>屋外側</p> <p>屋内側</p> <p>せっこうボード12mm厚以上</p> <p>亜鉛鉄板</p>
3	P174 参考文献 左段 2行目	施工と管 242	施工と管理 242

3	P186 図 3.6.2	 <p>締結材</p> <p>鋼板の熱膨張による内部応力の発生、変形</p> <p>締結材に力が加わる</p>	 <p>締結材</p> <p>鋼板の熱膨張による内部応力の発生、および変形</p> <p>締結材に力が加わる</p>
3	P189 写真 3	写真の説明なし	写真 3.6.2 破壊状況
3	P191 (3) 図 3.6.8	エキスパンションジョイント	エキスパンションジョイント
4	P212 表 4.4.2	日鐵住金鋼板(株)	日鐵住金鋼板(株)
4	P214 図 4.4.3	銅板屋根	銅板屋根
5	P238	(9) 役物(軒、棟、けらば等)の取り付け	(11) 役物(軒、棟、けらば等)の取り付け
5	P241	(10) 検査・引き渡し	(12) 検査・引き渡し
5	P253 クリアランスの図	上刃と下刃との間に	上刃と下刃との間に
7	P305 図 7.4.2	無溶接の専用金物工法)	無溶接の専用金物工法